

NEWS

Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center

LETTER

CONTENTS

1. 巻頭言
2. 授業紹介「教職インターンシップ実習」
3. 講座紹介「教採対策総合演習」
4. 教採合格者インタビュー



“食べる”から見える子供の姿

片山 直幸（健康栄養学科）



私はこれまで、栄養教諭や学校給食を中心に「食育」をテーマとして、学校現場や学生のみなさんと関わってきました。「食」の学びは教科書だけで完結するのではなく、日々の生活そのものが教材になります。

たとえば「朝ごはんを食べるかどうか」「誰とどこで何を食べるか」「一人で過ごす夜にどんな飲み物を選ぶか」...その一つ一つの選択の背景には、家族との関係、経済状況、SNSから得る情報、こころの状態などが折り重なっています。私たちが「食育」を考えると、その人の生き方や価値観、そして社会の仕組みと切り離して語ることはできません。

その一例として、「給食の時間だけ急に無口になる子供」がいました。教室では明るいのに、保健室では腹痛を訴え、給食では決まって同じおかずを残している。それぞれの場面では「よくある一場面」に見えても、教室・保健室・給食の情報がつながったとき、家庭での状況や心の不安が少しずつ見えてきました。

こうした経験を通して強く感じるのは、「一人の力だけでは届かない子供の姿」が必ずいるということです。だからこそ、みなさんには「自分の専門だけを守る先生」ではなく、「他の専門と手を取り合える先生」になってほしいと思っています。

みなさんの多くは、将来、学級担任・養護教諭・栄養教諭として、同じ子供の「食」と「健康」と「生活」に向き合うことになります。教室の様子、保健室で見る表情、給食の時間の食べ方など、見る場所が違えば、見えてくる子供の姿も異なります。そのときに心に留めてほしいのは、「正しいことを教える人」で終わらず、「子供と一緒に考え続ける人」であり続けることです。栄養や健康に関する知識はもちろん土台になりますが、それ以上に、子供の背景に耳を傾け、迷いや葛藤ごと受け止めようとする姿勢がものを言います。

その一方で、自分自身の生活もおろそかにできません。忙しさの中で、自分の健康や暮らしが後回しになってしまう時期もあるでしょう。しかし、「食べる」「休む」「誰かに相談する」を大切にできる人だけが、子供に「自分を大事にしていんだよ」と伝えられます。試験勉強や実習で精一杯のときこそ、自分の「食事」「睡眠」「心のバランス」をふり返る小さな時間を意識してもらってください。

子供の“健康・食・いのち”を支える専門職として、そして一人の大人として成長していくみなさんを、これからも応援しています。

授業紹介「教職インターンシップ実習」

今年度から、健康スポーツ学科2年生対象「教職インターンシップ実習」が開講されました。これまでの学びを実際の教育現場で適用し、教師になるために必要な知識・技能・態度を習得することを目的とした授業です。

今年度は11名の学生が、新潟市内の中学校で5日間、サブティーチャーとしての授業支援や学級担任補助などを行いました。ボランティア活動と違い、教師という立場で生徒と接する機会は、教員の魅力をより知ることにつながり、これからの大学での学びや教員採用試験への意欲付けにもつながっていきます。3年生での早期受験をする学生も増えており、教員を目指す学生にとってとてもいい機会になる授業です。

受講学生の学び・感想（一部抜粋）です。

教職インターンシップ実習を通して、中学校の現場の空気や仕組み、学校生活や生徒の姿、教師の働く様子を肌で実感できた。その中でも、全体や個別の声掛け、褒める・注意する言葉など、教師の一つ一つの声掛けが、生徒の意欲や姿勢に大きく影響することを実感した。生徒個々の学習進度や得意不得意に応じて最適な指導をすることは難しいが、これからの授業を通して学習指導要領を深く理解し、可能な工夫ができる教師になるようにしていきたいと思った。

何よりも、とても楽しい実習で、教育の場が好きだと強く実感できるいい機会になった。



講座紹介「教採対策総合演習」

後期木曜2限に、健康スポーツ学科1～3年生25名ほどで学んでいます。

教採までまだ多少の時間的ゆとりがあるので、教採試験問題対策だけでなく、教育問題に関するディスカッション、授業や生徒指導に関する場面指導、協同での学習指導案作成、模擬授業など、実践的な活動も取り入れながら学んでいます。学生同士が主体的・対話的に学ぶことを通して、「教員としてどのようなことが大切なのか」「教員となった時、私は何を大切にしていきたいのか」など、力量形成、指導観形成につながる学びを得ています。



2025年実施 教員採用試験結果

過去最高！現役合格19名（2026年1月現在）

今年度実施された教員採用試験において、小学校教諭10名、中学校・高等学校保健体育教諭6名、養護教諭2名、栄養教諭1名の合計19名の現役合格者を輩出しました。また、大学院学生（中学校保健体育教諭）1名、現役学生の私立学校正規採用1名の合格もありました。これは、これまでで過去最高の合格人数であり、とても多くの学生の努力が実ったことをとても嬉しく思います。また、卒業生からも合格の報告が届いています。

今回は、現役合格した5名へのインタビューを掲載します。

合格者へのスペシャルインタビュー

- ①教員を目指した理由 ②教員採用試験に向けた取組
③後輩へのアドバイス

さいたま市
栄養教諭
合格
Mさん

- ①小学校時代、食べるのが遅かった私に声をかけ続けてくれた栄養教諭の先生がきっかけです。大学で食について関心を深め、日々の幸せから一生ものの健康まで貢献できる栄養教諭になりたいと決意しました。
- ②問題集を繰り返し解くことで知識を増やし、学内講座での実践例と組み合わせながら理解を深めました。面接対策は、複数の先生から様々なアドバイスをいただきながら改善を重ねました。
- ③早い時期からの勉強！そのために「モチベーション」を保つことが大切だと思います。問題集を解く時には将来これをいつ使うか想像したり、先生や先輩から現場の話を聞いたり、仲間と話したり、自分をたくさん褒めることも良かったです。モチベ！応援しています！

- ①学生ボランティアで、十分な教育を受けられない子どもたちと出会いました。彼らが初等教育の欠如により貧困から脱却できない状況を目の当たりにし、初等教育こそが人が生きる上での重要な基盤だと感じ、小学校教員の職に就きたいと考えたからです。
- ②教育系雑誌の予想問題や重要問題を反復するとともに、全国の過去問を徹底的に解きました。不明点は、参考書で繰り返し学習し、さらに最新の教育用語は内容まで正確に説明できるよう努めました。
- ③「なぜ教員になりたいのか」原点を忘れず、使えるものは全て使う意識が大切だと思います。周囲の会話や勉強にも意識を向け、様々な知識を得ていってください。

新潟県
小学校教諭
合格
Hさん

福島県・新潟県
小学校教諭
合格
Oさん

- ①教員である両親の姿に憧れを抱いたことが、教員を目指すようになった最初のきっかけです。そして、実習を重ねていくうちに子どもたちの成長の過程に寄り添い、その変化や頑張りを間近で感じられる仕事に強く魅力を感じました。「自分も子どもたちの未来を支える存在になりたい」と思い、教員を志しました。
- ②部活動との両立は決して簡単ではありませんでしたが、授業の空き時間を有効に使って勉強に取り組みしました。また、常に参考書を持ち歩き、空き時間にも学習できるよう工夫し、日々の積み重ねを大切にしてきました。
- ③不安でくじけそうになることもあると思います。でも、試験はチーム戦です。共に頑張ってくれる仲間や先生方がいます。自分を信じて、最後まで諦めずに頑張ってください。心から応援しています！

- ①私が教員を目指した理由は、子供たちに対して指導をしたり何かを伝えたりすることができる教職の仕事に、とても魅力を感じたのが大きな理由です。その中で、自分の得意な運動を活かせる保健体育の教員を目指そうと思いました。
- ②過去問を繰り返し解いたり、受験自治体以外の問題も解いたりなど、とにかく多くの問題に触れるようにしました。問題を解いていく中で自分の弱点などを見つけ、重点的にその内容を復習しました。
- ③とにかく早いうちからコツコツと積み重ねることがとても重要だと思います。1日1日が無駄にしないでください。また、何か分からないことや不安なことがあれば、先生方や友達、教職支援センターの方々に頼ることも大切です！頑張ってください。応援しています！

新潟県
中学校教諭
(保健体育)
合格
Kさん

福島県
養護教諭
合格
Yさん

- ①私が大きな悩みをもった時、中学校の養護教諭に相談・支援などをしていただいたことをきっかけに、私も児童生徒の心身の健康を守り、学校の中に子どもたちの居場所となる保健室を作れる教員になりたいと思いました。
- ②大学2年生の頃から、模試の受験と問題集、自治体の過去問、参考書を活用して学習をしました。具体的には、模試を受験した後や問題集を解いた後に、参考書に不足している内容を追記し、自分なりの参考書を作りました。
- ③学習を進める過程で、進路や勉強方法で悩むことがあるかもしれませんが。そんな時は、学科の先生や教職支援センターの先生方など周囲の人を頼ってください。みなさんの悩みに一緒に向き合ってくださいと思います。みなさんの将来の夢が叶うことを応援しています。

あとがき

今年度実施された教員採用試験では、過去最高の現役合格者19名（2026年1月現在）を輩出しました！

昨年度より、8月の夏季休業期間中も二次試験（面接）対策としてセンターを開室し、非常勤の先生方ならびに本学教員一丸となって試験直前まで在学生・卒業生に熱い指導を行っていただいています。

採用試験の早期化など教員採用のあり方が様々な変化を迎えるなか、これからも学生の皆さん・卒業生の皆さんにとって有意義な場となるよう、センター教職員一同取り組んでいます。（教職支援センター 菅原）



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター
2026年1月30日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

✉ E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp

🌐 WEB : https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/

WEB

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索